鬢付け（びんつけ）油とは

木蝋（もくろう）と菜種油など植物油を混ぜて固形状にしたものです。

江戸時代から男女問わず整髪やちょん髷（まげ）に使われてきました。

鬢付け油の名前の由来は「鬢（びん）の部分を付ける油」というところからきています。

木蝋（もくろう）と植物油の割合で硬さが違い、油の割合が少ないと硬くなり、油の割合が多いと柔らかくなります。

星徳商店の主な商品は「鬢付（びんつ）け油・固練（かたね）り」 硬い

「鬢付（びんつ）け油・中練り」 固練りとすき油の中間

「鬢付（びんつ）け油・すき油」 柔らかいもの 。

※**すき油**は髪を梳（す）く時に使われる油に適しているためそう呼ばれています。

鬢付け油に使われる木蝋（もくろう）とは

生蝋（きろう）とも呼ばれ、ウルシ科のハゼノキ(櫨)の実から、抽出した蝋（ろう）です。
搾ってからそのまま冷却して固めたものを「生蝋」(きろう)と呼び、さらに蝋燭（ろうそく）の仕上げ用などにはこれを天日にさらして白くなったものを用います。

江戸時代から木蝋（もくろう）は蝋燭（ろうそく）だけでなく、鬢付け、艶(つや)出し剤、膏薬（こうやく）などの医薬品や化粧品の原料として幅広く使われていました。

このため商品作物として明治時代まで西日本各地で盛んに栽培されていました。現在は木蝋（もくろう）は長崎県、福岡県、愛媛県などで生成されています。

東京都台東区千束２－１－４　　びんつけ油専門店　星徳商店